

様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称	平成27年度 第1回行田市地域公共交通会議
開催日時	平成27年12月17日（木） 開会：10時30分 ・ 閉会：11時45分
開催場所	行田市役所3階305会議室
出席者(委員)氏名	川島将史副市長、高橋直樹委員、鈴木貴大委員（代理：鈴木氏）、長島豊委員（代理：小林氏）、新井忠晴委員、鶴岡洋委員、高原昭委員、小川海治委員、大澤邦夫委員、田島幸夫委員、柳瀬光輝委員、中村仁委員、今野勉委員、能勢一幸委員、小倉輝男委員、小林修建設部長、島田徹総合政策部長、竹井英修健康福祉部長、藤井宏美市民生活部長
欠席者(委員)氏名	田尻要委員、小林乙三環境経済部長
事務局	地域づくり支援課：門倉課長、吉田主査、角田主任、吉田主事
会議内容	(1) 平成28年度の市内循環バス運行について (2) その他
会議資料	市内循環バスの沿革【資料1】 市内循環バスの概要【資料2】 市内循環バス利用者数の推移【資料3】 市内循環バス乗降人数調査結果概要【資料4】 行田市次期地域公共交通実証実験（乗り合いタクシー）について【参考資料】 北本市デマンドバス概要【参考資料】 東松山市デマンドタクシー（タクシー補助）概要【参考資料】 行田市地域公共交通会議設置要綱【参考資料】 行田市市内循環バスぐるっと便利帳【参考資料】 行田市ガイドマップ【参考資料】

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会 会 長 議 長 （会 長）	1 開 会 2 委嘱状交付 3 会長あいさつ 4 委員紹介 5 議 事 議事の（１）「平成２８年度の市内循環バス運行について」を議題とする。事務局より説明をお願いする。
事務局	<「資料１」、「資料２」、「資料３」、「資料４」に基づき説明>
議 長	事務局からの説明に対し、意見や質問があればお願いします。
能勢委員	資料４「乗降人数調査結果概要」の調査方法を確認したい。
事務局	資料４については、各路線始発便から最終便まで調査員を同乗させ、各停留所における乗降状況を集計し、まとめたものである。なお、調査実施にあたっては、行田市シルバー人材センターへ委託したものである。
新井委員	資料２に記載されている運行経費補助金と運賃収入の関係を詳しく説明してほしい。
事務局	運行経費から運賃収入を差し引いたものを補助金として支出している。平成２６年度を例にすると、運行経費補助金額と運賃収入を足した約９千万円が全体の運行経費であり、そこから運賃収入の１９,６１０,５６９円を差し引いた７１,９２６,１０６円を運行事業者３社に対し補助金として支出したところである。

<p>高原委員</p>	<p>平成28年度の市内循環バス運行については、現行の運行を1年間延長するとのことであるが、収支率が悪いにもかかわらず、運賃値上げの議論は行わず100円を維持するのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>運賃値上げについても検討してきたが、引き続き検討する予定である。現在通常1回100円、障がい者などは無料としているが、路線バスとの乖離が激しい面もある。路線バス吹上線が180円から340円に対し、南大通り線コースはシャトル方式で運行している中で1回100円である。この点に限らず、全体的な値上げも含めて、検討していく。</p>
<p>柳瀬委員</p>	<p>資料2の乗継券について、どのような乗継のケースがあるのか説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>JR行田駅から総合福祉会館に乗継券を使って移動する場合について、1例を申し上げる。まず、JR行田駅前停留所から観光拠点循環コースに乗車し、各路線の結節点でもある行田市バスターミナル停留所で一度降車していただく。運賃支払いの際に、他の路線に乗り継ぐ旨を運転手に申し出ていただくことで、乗継券が発行される。そこから北西循環または北東循環に乗車し、総合福祉会館停留所で降車の際に乗継券を使用することで100円の料金を移動することができる。</p>
<p>柳瀬委員</p>	<p>説明のあったケースを含む利用方法については、市民に十分に周知されているものなのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>時刻表には乗り継ぎが可能である旨を記載しているが、改めて市報などで周知しているわけではないため、特定の方の利用が多いと思われる。</p>

鶴岡委員	乗継券の発行数について、統計はあるのか。
事務局	詳細は把握していない。
鶴岡委員	運転手の協力を得て統計をとることで、違ったデータが出てくると思うのでお願いしたい。
事務局	今後、情報を集めていきたいと思う。
田島委員	資料４の目的に利用者の少ない路線があるのが現状であると記載されているが、バスの乗車定員に対し、どの程度の乗車率で運行しているのか。加須市のバスを見るとワゴン車が走っている。その辺の検討は行っているのか。
事務局	平成２６年度に行った市内循環バス乗降人数調査から統計をとったところ、北西循環コースについては乗車人数が０人の便が全体の１４．４％であった。同じく北東循環コースは６．３％、東循環コースは８．８％であった。次期運行に向けた見直しの中で、車両の小型化も検討している。一方で北西循環や北東循環は総合福祉会館へ向かうため、小型化した場合乗りきれなくなることも考えられる。その点も踏まえながら、検討していきたい。
新井委員	資料４の集計の仕方について、南大通り線コースについては８日間のトータルでよいのか。
事務局	その通りである。
新井委員	では、北西循環コースについては２０日間のトータルでよいのか。各路線で便数の相違がある。例えば南大通り線コースは片道

事務局	<p>20便の40便、北西循環は片道4便の8便というように、便数の問題と調査日数にも違いがあるため、本当の利用状況について、詳しい部分かわからない。1日1日で分析したほうが、細かいデータが出てくると考える。</p> <p>今回の資料では、細かい部分まで読み取れないが、南大通り線 上り延べ利用者数について、JR行田駅前停留所の利用者数が1,149人となっているが、こちらはシャトル運行のため、降車した人の人数となっている。この8日間で、1日20便であることから計160便分であり、1便あたり7.2人となっている。その他の詳細なデータについては、改めて検討させていただきたい。</p>
議長	<p>他に意見や質問がなければ、平成28年度の市内循環バス運行は、現行の運行を1年間延長することについて承認としてよいか。</p> <p><承認></p>
議長	<p>次に、議事の(2)「その他」を議題とする。事務局より説明をお願いする。</p>
事務局	<p><参考資料「行田市次期地域公共交通実証実験(乗り合いタクシー)について」、「北本市デマンドバス概要」、「東松山市デマンドタクシー(タクシー補助)概要」に基づき説明></p>
議長	<p>事務局からの説明に対し、意見や質問があればお願いする。</p>
高原委員	<p>参考資料について説明があったが、いずれかの制度について、</p>

	<p>平成29年度からの本格導入に向けて検討に入ったとの理解でよいのか。先ほど乗車人数が0人の便があるとの説明があったが、税金の無駄使いとまでは言わないが、タクシーが効果的だと考えている。その他に福祉券のような制度設計をしていただければ、限られた予算の中で成果が期待できると考えている。埼玉県では美里町がタクシー券を導入し、他県でも導入が促進されている。また、加須市では幹線ルートにバスを走らせ、結節点までの輸送をタクシーが担うという運行システムを導入している。これらを踏まえ、平成29年度の本格導入実現に向けて検討していただきたい。</p>
事務局	<p>デマンドタクシーやタクシー補助についても、事務局としては一つの方策として考えている。しかし、国のガイドラインにあるように路線バス吹上線との関係もある。その辺の整合性を図ることが難しい問題であると考えている。色々な方からご意見をいただきながら、地域公共交通会議に諮っていきたいと考えている。また、美里町のタクシー券補助についても承知している。</p>
高原委員	<p>タクシーは飛び地から飛び地への輸送に唯一対応できる交通手段である。これから高齢化により、バス停までの移動も困難な方が増えてくる。この観点からもタクシーが効果的であることを付け加えさせていただく。</p>
新井委員	<p>交通空白地の移動手段として現行の循環バスやタクシーを利用したデマンドの説明があったが、埼玉県や全国を含めるとデマンドタクシーの導入例は相当数あり、流れがきている。その中でデマンドタクシーとタクシー利用券の説明があったが、東松山市の実証実験では3ヶ月で190万円しかかかっていない、年間でも1,369万円の計上となっている。利用してはじめて費用が</p>

	<p>発生する、設備もいない、既存タクシー会社の設備を利用する、予算的にも節約できるという利点がある点を考慮し、平成29年度からの運行に向けて検討してほしい。また、もう一つの方法としてライドシェアがあるが、安全性の担保が国で議論されている。事故が起きた時の責任の所在が曖昧である。いずれにしても、行田市においてデマンドタクシーの実証実験を2ヶ月間運行させていただいた際には、2ヶ月という短い期間だったため、周知徹底が行き届かず、終わる頃になって運行を続けてほしい、便利だったとの好評をいただいていた。その点も考慮していただき、デマンドタクシーまたはタクシー補助を公共交通の中で生かしていただきたい。</p>
<p>今野委員</p>	<p>29年度からの運行に対しお願いがある。料金無料または半額の対象者を広げてほしい。県警では、シルバーサポーター制度があり、高齢で身体能力の低下から運転免許証を自主返納した方に対し運転経歴証明証を交付している。内容としては運転免許証と同じである。この証明証を提示することで、タクシー利用料金割引など各種サービスが受けられるようになっている。このように運転経歴証明証を掲示することにより、公共交通が割引で利用できるとわかれば積極的に制度を利用する方が増えると思う。公共交通機関の利用者も増えてくると考える。福祉のまちづくりを行田市から進めていただければアピールにもなる。ぜひ、運転経歴証明証、シルバーサポーター制度を取り入れた公共交通機関の検討を行っていただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局としても高齢者の外出機会の確保を考えている。現行は高齢者からも100円頂いているが、例えば75歳以上の高齢者は無料とするといった案も考えている。近隣の熊谷市では、運転免許証を返納した70歳以上の市民の方は無料としている。また</p>

	<p>鴻巣市では、通常150円のところ65歳以上は100円として いる。加須市、羽生市は現在高齢者割引を取り入れていないが、 ご意見を踏まえて検討させていただく。</p>
<p>鶴岡委員</p>	<p>国で交通政策基本法ができ、地域の足を確保するため、自治体 の都市計画の一環で公共交通をどうするか、地域の創生をどうす るか検討することが法律の基本概念にある。国や自治体、既存バ ス事業者、既存タクシー事業者、住民が一体となって地域の足を 確保するため、行田市の中で独自に検討していただければ良いと 思う。また、現行の運行体制を一年延長し、平成29年4月から の新たな運行にあたり、平成28年度中の見直しスケジュールは 作成されているのか。認可などの手続きもあるため、スケジュー ルを組んでいただき、平成29年4月から運行開始できるよう検 討を進めてほしい。特に、既存バス、タクシー事業者といった民 間事業者に配慮していただき、バス、タクシー、コミュニティバ スが一体となって共存共栄し、市民の足を確保していくことが必 要と考えている。その点も考慮していただきながら、どのような 交通体系が良いのか検討を行っていただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>現時点で、詳細なスケジュールは決定していないが、本日の会 議で平成28年度の運行に対し了承をいただけたことから、早急 にスケジュールを組みたいと考えている。仮に循環バスにおいて 新車を導入する場合、事業者より納品に4ヶ月かかるとの話もい ただいている。また、国土交通省の認可については通常3ヶ月か かるところが、地域公共交通会議の了承があれば2ヶ月に短縮さ れると聞いている。本市の予算要求の関係もある。それらを踏ま えて、スケジュールを組ませていただく。</p>
<p>議長</p>	<p>質問もないようであれば、以上で本日の議事を終了とする。慎</p>

<p>司 会</p>	<p>重にご審議いただき、感謝する。 これにて議長の職を解かせていただく。</p> <p>6 閉 会</p>
------------	--